

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700235		
法人名	小国町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原425-8		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな町にある施設という事で、利用者・ご家族と、働く職員が地域の共通した話題を持っている事も多く、また、子供さんや孫さんの同級生だったり、自宅同士がご近所さんだったり、お互いに全く知らない関係でない事で、始めから安心感や親しみのある関係性が持てる事は小さい町ながらのメリットと感じます。
 そのような中でも職員は尊厳の気持ちを持って利用者と接し、心地よく暮らせるよう支援に努めています。
 利用者と職員お互いに「あなたが居てくれて良かった」と感謝しあえる事が目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小国杉をはじめ鶯の鳴き声、時にはホームの中から山の中で動く小鹿を発見される入居者など山里での生活は、何より馴染みの環境であり、玄関を中心に左右に配置されたユニットで穏やかな時間が提供されている。コロナ感染症がなかなか終息しない現状であるが、ホームでは状況を見ながら地域資源を活用してき得る外出支援の継続や、終息に備え今のうちから入居者の要望を把握しておきたいとしており、感染症を言い訳にせず、今後に焦点を当てたいという思いが伝わってくる。ホーム内での楽しみごとなども工夫し、生き生きと業務に当たる姿は家族の信頼や安心に繋がっており、最終の時をこのホームでと希望されている。また、主治医と連携し、～私の希望～とした終末期医療に関して、最期を迎えたい場所や食事がとれなくなった場合の対応などについて思いや希望が確認されている。コロナの影響で制限されることも多いが、入居者と職員がお互いを大切な存在として日々を過ごしていかれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が身近にあるように朝と夕の申し送りの際に唱和を行う他、ケア会議の中でお一人おひとりについて理念に添ったケアについて考え具現化を行った	現行の理念の見直しを行い、基本理念と5つの心得を本年3月1日よりホームの新しい指針としている。職員のケアに対する思いは日々の生活の中で「今日一日を頑張る、次の一日を頑張る」として、入居者との貴重な時間をともに大切に過ごしていくこととしている。	新たな理念は各ユニットのリーダーを通じて職員に伝えられているが、変更にあたっては検討の段階から職員との協議の必要性が望まれる。今後運営推進会議などを通じて、家族や地域への啓発が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の影響があり地域の催し等は開催されず参加も出来ない	コロナ感染症の影響により地域交流の機会がなかったようであるが、職員は室内活動の充実を図り、餅つきで正月を迎える等、入居者に馴染みの年中行事を通してホーム内の活性化に努めている。	地元の小・中学校との交流も中断されており、今後の再開に向けたやり取りを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小国郷安心ネットワークで認知症カフェに参加し地域の認知症の方の支援に参加している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや動きについて報告する他、施設としての課題なども議題に取り上げている。今年は感染症対策について話をする事が多かった。	社会の状況を見ながら直接開催もできているが、難しい場合には関係者への会議資料の送付による書面審議としている。身体拘束についてはホームの事例を通じて拘束に当たらないかなど、一つ一つを検証していることなどを拘束の取組として発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の高齢福祉課には運営推進会議に参加頂いている他、連絡事項をメールで知らせて頂いたり、事業所の運営について確認したい事がある時なども気軽に相談出来ている	行政の担当者には運営推進会議に同席してもらい、ホーム運営に対する意見や提案を得たり、入居申し込みについての相談や報告が行われている。この一年も感染症に関するやり取りが多かったようであり、ワクチンの集団接種もホームで実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・研修やアンケート実施にて再認識し取り組んでいる ・センサーマットの使用に関しては家族に周知説明後、同意頂き使用している。 	職員は新聞記事や報道などから他所の事例をもとに話し合う機会をもっている。ホームでは食事のエプロン使用について、本人が望んでいないのに付けていないか、必要がないのに使っていないか等、入居者の尊厳に通じる課題として意見を出し合い、最良の方法を検討している。法人主催のスキルアップ研修に参加し、アンケートによる自己点検の機会をもっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や他の研修の参加にて、自己の行動言動の振り返りに努めている 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加をして制度についての理解はできているが、利用者、家族に周知、活用までには至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には内容についてわからない事がないか、一つひとつ確認をしながら説明し同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族の面会等の際に「何かないですか？」と意見や要望が言いだしやすい声をかけるよう心掛け、事業所全体で考えるよう取り組んでいる	家族の意見は面会の折や電話で聞くようにしている。コロナ禍の折、情報が途切れないように“なごみ新聞”に、入居者の普段の様子や行事での笑顔の写真を送付して安心してもらうようにしている。入居者の中には長引く状況にマスクを外して他者と関わりたいと不満を口にされるなど感染症の影響が出ているようである。職員は努めて入居者の傍に寄り添い不安の解消に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で個々の意見の表出や、日常の申し送り等からリーダーを通して管理者へ提案し検討している	職員は普段から気づいたことを申し送りなどで声にあげ、必要によってケア会議で検討している。立位が厳しくなられた方に肘付きのバギー車に変更するなどホーム購入で対応している。また、居室でベッドの位置を決定する際、自宅ではどちら側から乗り降りされていたかなど入居者の動きと合わせて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人員配置が厳しい ・環境整備は労働時間など都度協議を行い整っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的な研修への参加を行い、日々のケアの向上を図っている ・新人教育に当たり管理者自ら研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍の為他法人との交流は難しい状況であるが、zoomでの研修を通じ交流を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小国郷情報共有シートの活用の他、本人の思いを理解できるようコミュニケーションを図っている ご夫婦でいる事が安心に繋がる方には同じ部屋で生活出来る様にした		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・コロナ禍での面会を工夫したり、初めての施設からの通院の際にはご家族にも同行頂き状況を説明しながら、要望を伺うことに努めている ・スタッフ紹介パンフレットをお渡ししている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切な支援が出来る様、利用者様の状況から出来る事や困難な点等をチームを通して課題分析しケアプランに反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほとんどの職員は時間や業務に追われることなく利用者とゆっくり話をしながら共に過ごす関係を持ちたいと考えているが、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限もあり話が出来ることが減っているが、定期通院の際にはご家族にも同行して頂くなど、施設に入所されても一緒に支えていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出が出来ていない。なじみの方や地域の方との対面での交流は出来ないが電話や手紙などを用いて支援を行っている	家族との面会が制限された中で電話で声を聞いたり、手紙でやり取りしながら関係性が希薄にならないようにしている。一番風呂へのこだわりや昼食後にコーヒーを飲む方など馴染みの暮らし方に応じながらその人らしい生活を後押ししている。	入居者・家族の大半がなごみでの最終支援を望まれており、ホームや職員が馴染みの人や場所として変わらぬ支援が継続されることが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや催事を通し、お互いに興味を持って頂くような声掛けを行ったり、逆にトラブルに発展しないようスタッフが介入している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設での契約の終了は施設でお看取りをした場合が多いが、住み替え等が必要になった時は小国郷情報ケアシートの活用等で必要なフォローが行える		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状況に合わせ可能な限り意向に添えるよう、担当者やCMを中心にスタッフ間では話し合い、検討を行っている	職員は入居者との普段の関わりの中で会話から意見を収集したり、表現困難な方にはこれまでの暮らしぶりや表情から思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを図り、ご家族やその方を知る人へ尋ね、暮らしぶりや生活環境を把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェック。状況観察を行い、現状把握に努めている。 申し送りなどを通し、スタッフ間での共有も出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CM, 担当者を中心とし、スタッフ間で個々の現状の問題点を上げ、確認しながらケアプランへの反映は出来ているが、プラン作成を通して、担当者が担う点で具体的な部分に関してはもう一歩のところではある。	個別の介護計画の予定が一目でわかるように、“年間ケアプラン作成予定表”を職員にわかりやすく掲示している。ホームにはご夫婦で入居されている方もおられ、各居室の使い分けや、入居者自身の要望から持ち物の管理などに、できる限り関わってもらいながら、自宅生活を延長した内容を掲げている。半年ごとの評価、見直しにて見極め現状に即したものとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	レクや催事での行動や表情の記録を行い、いつもと違う言動、行動が見られた際は申し送りと共に記録に残し共有を行っている。電子カルテになり記録の見直しの機会が減っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で自由が利かないこともあり、ニーズに応えられるよう支援しているが難しい部分もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で厳しい状況である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなく、ご家族と相談しながら状況に応じた選択が出来るように支援している。 場合によっては訪問診療に変更している	本人・家族の希望や身体状況に応じて公的な医療機関への受診や訪問診療と、身体的負担から近隣医院への受診も行われている。介護報告書の中に次の通院日を記し、家族への協力依頼と状態を共有している。歯科については必要時に訪問による治療や口腔ケアが支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師には常に疑問を問える状況と共に訪問看護師への相談を交えて情報提供を行い、病院受診へ繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ICへの参加及び、訪問看護師を通して主治医との連携を図ったり、入退院時の情報共有シートを活用し情報交換も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを視野に入れたサービスを行い、状態変化等あればその都度ご家族へ連絡し説明している。意向に関してはプラン変更時に必ずアンケートを同封し確認を行っている。コロナ禍で施設内への出入りが難しいため付き添いが限定されている	契約時に指針をもとにホームの取組などを説明し、同意を得ている。また、ケアプラン更新時に今の気持ちや意向などを確認しており、ほぼ全員がホームでの最終を望まれており、延命措置希望など職員間での共有を図っている。直近では主治医との連携を図りながらこの2月に2名の方の看取りを支援している。家族の面会については、感染症の状況を見ながら入室や、窓越し面会を支援している。また、面会を行いやすいよう、中庭の部屋への移動なども検討されている。	看取り支援後本人を偲びながらカンファレンスを開催している。その際、褥瘡マットの導入、コロナ下での面会、グループホームでの看取りの在り方などについて検討されている。家族はホームへの信頼も厚く、最終の場所として希望されており、今後も日常のケアを大切にしながら入居者・家族を支えていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や応急手当についての勉強会は行ってはいるが、不安を感じている職員もいるため繰り返して訓練を行う必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の内1回は実際に夜間に行なう事で避難の難しさを実感し課題を見出している 今年度は出入り口にスロープを付けたり非常口に段差がないようにし外灯を設置した	年2回の避難訓練を実施している。1回目の訓練では消防署の立ち合いで行われ、非常口に物品を置かない、避難経路を日頃から確認する必要性などが指導されている。2回目はホームのみで夜間想定訓練を3月に予定している。日頃の安全管理は業務日誌の中で火元確認や、防災担当職員を中心に、発電機の確認を行い、有事に備えている。	前回の訓練後の改善として、出入り口のスロープや非常口の段差、外灯の設置がされている。また、玄関に置かれていた雑段飾りも避難誘導の面からユニット内に飾るなど、速やかな改善が行われている。感染症終息後は地域との協力体制として、以前実施された消防団の参加による訓練などにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛けや対応を行っているが、一部出来ていないと思うこともある(入浴時の衝立を使用し忘れたり等)	呼称は家族の「○○と呼んでほしい!」の要望や同姓も多いことから、苗字や下の名前でも対応している。同性介助について何も要望を出されなくても、以前要望を出されていたことがあれば継続して応じている。身だしなみやおしゃれについても本人の意向を尊重し、必要なサポートが行われている。保湿剤(化粧水・乳液)の使用や元旦、誕生会でのお化粧、現在は感染症の対応から控えられているが、馴染みの美容室でパーマやヘアカラーを楽しむにされている方もおられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にならない思いに寄り添えるよう努めている 日々の申し送りやケア会議の中で、そのような場面において職員の対応にどのような反応があったか情報共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意向に沿いペースに合わせた支援に努めている。人員配置もあり、希望に添えないこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や休息後の整容や散髪、毛染めなどを行っている 敬老会や新年祝賀会では日頃あまりしないお化粧やよそいきのおしゃれに生き生きとした表情の方もおられた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行いながら、食材切り、盛り付け、食器洗いなど出来る方に行って頂いている。 ・誕生会や行事食は本人様の好まれる物や旬の物をメニューに入れ提供している 	献立や調理は専任者が中心に行っており、誕生会では手作りケーキや肉・魚の要望などを聞きながら提供している。また、きな粉ご飯を好まれる方や、フレンチトーストや麺類の時もご飯も用意するなど、好みや要望を反映できるようにしている。食形態も個々の嚥下力に応じて準備しており、きざみやペースト食も多い現状であり、必要な介助、見守りが行われている。入居者は午前中に野菜切りやトレイ拭き、だしの準備(煮干しの頭取り)など出来ることに関わってもらっている。職員は現在、検食者が1名、他の職員は持参した弁当など時間をずらして撰っている。	検食簿の感想欄で未記入も見られ、今後は入居者の代弁者として、次回に活かせるコメントの記入が期待される。中庭でお弁当を開いての花見が行われており、今後も外気浴を兼ねながら、お茶の時間など食を楽しまれる機会を継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分量の把握を行い食事形態は看護師などのアドバイスを参考にしながら、その人に適した物を提供できている。嚥下状態に合わせてとろみを使用し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	きずな歯科との連携で口腔内の健康維持は行っている。毎食後、出来る範囲で本人に歯磨きを行って頂き出来ない方にも介助を行い、必要に応じて舌ブラシ、スポンジブラシ、口腔ティッシュなどを使用している。口腔体操をもう少し充実させたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表のチェックを行いながら個々の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている。布パンツなどの本人の思いにも配慮している オムツ交換回数とコストについての検討も行った	排泄チェック表で把握したパターンを職員間で共有し、個々に応じた支援に努めている。現在、リハビリパンツを使用される方が主であるが、おむつや3名が布パンツで過ごされている。排泄用品については、昼・夜や時間帯など状況に応じた使い分けを検討することで、本人の不快感を減らしたり負担軽減にもつながっている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、清潔に管理されている。排便につながる牛乳も、成分によって飲料や調理など使い分けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を提供し、おやつに乳製品を取り入れたり発酵食品を1日1食提供するよう心掛けて便秘予防に努めている。場合によっては医療面よりアドバイスをもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施 通院時は前日に入って頂くことを気掛けている。本人の体調などによっては日にちや時間の変更などを行っているが、人員配置によっては希望に添えないこともある	以前は週3回の入浴としていたが、人員配置の面から現在は週2回の支援となっている。拒否をされる場合には、無理強いせず職員が会話を工夫し誘導している。一番風呂希望や以前よく利用されていた温泉(ぬる湯温泉)を思い出してもらえるようぬる湯とするなど、個別の要望にも対応している。シャワー浴が中心の方にも、浴槽に湯を張り、湯船に浸かっているような気持ちで温まってもらっている。バラ風呂を取り入れたり、菖蒲、柚子湯支援では、全員がゆっくり楽しめるよう1週間準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候を見ながら日中の散歩や日光浴を行い、夜間の入眠支援に努めている。冬場は湯たんぽを使用したり、本人の希望に沿い休息を取り入れ昼夜逆転に注意しながら、離床の声掛け等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修に参加し知識を深めたり、薬剤師からの情報はスタッフへ周知し共有に努めている 誤薬が起きないようにチェック体制を常に検証しながら服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事に関する役割の他、歳時記のお菓子作りや年の暮れの餅まるめなど欠かさず行っている 酒を嗜んで頂く機会もある 火災予防・健康推進の観点からタバコについては全面禁止とした		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブの計画を立て、その季節を楽しめるように努めている。コロナ禍で外出出来ない事もあるため、落ち着いたら実行できるように今のうちに希望を取っておきたい	感染症の状況を見ながら、季節の花見学、足湯等地域資源を活用しながらドライブ外出が支援されている。また、運営推進会議や家族からも開花情報などが寄せられ、入居者の外出の機会を後押ししている。数人で中庭や玄関先での外気浴をはじめ、仏壇まいりで自宅へ帰省するなど個別支援が行われている。管理者は感染症が落ち着いたら、速やかに外出を楽しめるよう、個々の要望を聞き取っておきたいとしており、このことも入居者とのコミュニケーションや楽しみ、家族の安心につながると思われる。	状況を見ながら地域ならではの外出支援が行われており、継続した取り組みが期待される。また、初詣外出に代わってホーム内でおみくじを準備するなど入居者全員が楽しめるものと思われる。取組に期待した。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援は出来ない為、頼まれて代わりに購入する支援を行っている。持ちたい、買い物をしたいという方の支援も出来ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればこちらから電話をし、お話しできるように繋いでいる。かかってきた場合も同様に対応できている。手紙の支援(代筆も含め)も行っている 携帯電話を所持している利用者もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、壁面に飾りなどを利用者様と一緒に製作している。まだ出来ることは無いと考えていき、実行したい(整理整頓も含め)	木々の移ろいをはじめ、鳥の鳴き声など季節を感じる事が出来る環境であるが、ホーム内でも毎月壁面作りを入居者と一緒に楽しみ掲示している。1月には干支の虎を制作し、一人ひとりの目標が添付されたようである。感染症への対応として、これまで以上に換気や掃除、消毒などの徹底に努める他、不安なく過ごせる環境や、寛げる空間となるよう、席の配置なども相性や身体状況なども考慮しながら検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にはリビングや食堂の複数の人が居る空間の他、廊下にもソファや椅子を設置し少人数で過ごせる空間もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた物などあればお持ち頂けるようご家族へ声掛けを行っている。生活歴や状況に合わせて検討も必要と思われる	入居者本人の生活される雰囲気をつかべながら、自宅で使用されていたものの持ち込みを伝えている。ベッドの配置や向きなども、これまでの生活状況を聞きながら検討している。不足の衣類などがある場合は、家族へ依頼したり、職員の代行も行われている。感染症への対応から、家族による衣替えなどは困難になっており、換気や掃除の徹底とともに職員が行うことが多い現状である。	面会が制限された状況であり、引き続き家族に代わって居室内の環境整備や安心につながる報告に期待したい。また、仏壇や位牌、遺影などの持ち込みは心の拠り所になっていると思われる。仏飯、お茶、花の備えなど変わらぬ職員のサポートを願いたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具の配置の工夫を行い掴まって支えになる物を置いたり、目的地がわかる様にする事で安全に、安心して自分で動けるような工夫を行った		